



# “源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和8年7月①  
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmob.jp



## ◆火難から身を守ろう

平成 20 年代半ばあたりから、刃物を使った犯罪が急増しているように感じます。報道の偏りもあるかもしれませんが、コロナ禍中やその後さらに増えていると言われます。

殺意とまで言わないまでも、激しい気持ちに突き動かされるような出来事は誰にも起きる可能性を否定できません。

と一緒に読経することも多い観音経に、次のような一節があります。

けし こう が い い  
仮使興害意  
ねん び かん の ん り き  
念彼観音力

すい ら く だ い か き ょ う  
推落大火坑  
か き ょ う へ ん じ ょ う ち  
火坑變成池

直訳

たとえ悪い思いにより 火の燃え  
盛る穴に落ちたり落とされたとしても  
かの観音力を念ずることによって  
火の穴は池に変わるでしょう

ここに登場する「火」とは「瞋り(いかり)」を表しています。つまり、「火坑(火のあな)」とは煩惱のトップスリー「貪瞋痴」のひとつである「瞋・怒りの心」を表しています。

火の穴に落ちたり落とされるほどの災難は滅多に無いと思いますが、騙されたり、陥れられたりというのは身近にありそうなことです。その時、怒りに我を忘れたり、復讐を考えたりすると、とんでもない深みにはまってしまうことも考えられます。

小さな火がもとで、一山を燃え尽くしてしまうこともあります。怒りの炎は早く消しておかないと制御不能となり、火元がどこであろうと大きな苦悩を味わうのは自分自身です。先日亡くなられた中村玉緒さんは「人を恨んでも、自分がしんどくなるだけ」

と話していました。

平常心へと舵を切り直し、怒りに益はないと頭を冷すこと。手を上げるのではなく、手をあわせることで、だれもがもっている仏心に自分自身と廻りがまもられていくのではないのでしょうか。

日頃から手をあわせることを大切にしたいものです。今月の塔婆裏文は「火坑變成池」としました。

火坑變成池

## ◆ツリーを飾るように

お盆までひと月少々。盆棚を準備されるお宅、仏壇を荘厳してお迎えされるお宅などいろいろありますが、その家の伝統の形を感じるがあります。

「キュウリの馬、ナスの牛」はどこも共通ですね。盆提灯やほおずき(鬼灯)はご先祖様を導く灯火として準備されます。

清らかな水(閼伽水<sup>あかみず</sup>)やそうめん、山海の珍味なども多くのお宅でお供えされていますが、「百味の飲食<sup>おんじき</sup>」といって、故人の好きだった食べ物やご馳走などの飲食物、またお酒やたばこなどの嗜好品などのお供えは、おのずと家々によって違います。毎年必ず同じ位置にスイカがお供えしてあったり、果物の缶詰が積まれていたりするお宅もあります。

と、ここまで書きましたが、ご先祖様はもちろん、有縁無縁の万霊を供養する仏心こそ大切です。

「子供たちや若い人達には、“お盆の準備はクリスマスツリーを飾るのと同じ気持ちで楽しんでください”と話しています」というお寺があり、それはいい伝え方だなと思いました。

